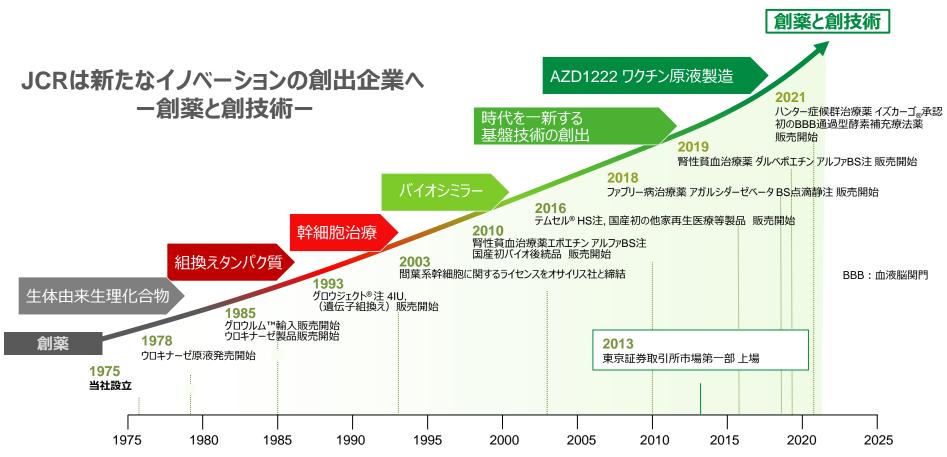




## JCRファーマ株式会社 - 当社の歴史





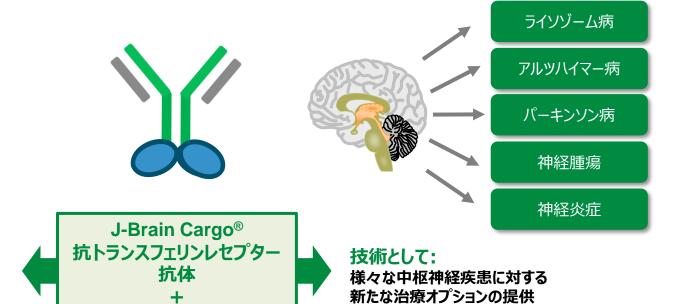
## イズカーゴ。日本での承認 JCRの新たな歴史の幕開け

標的分子



#### 医薬品として:

MPS II型を含むライソゾーム病の新たな治療オプションの提供

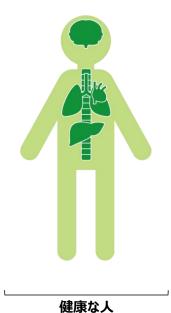


MPS II型:ムコ多糖症II型(ハンター症候群)

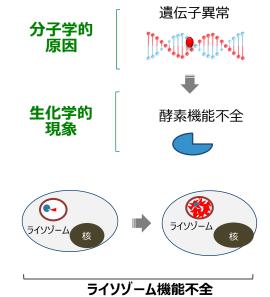


# プロストライソゾーム病の病態と治療

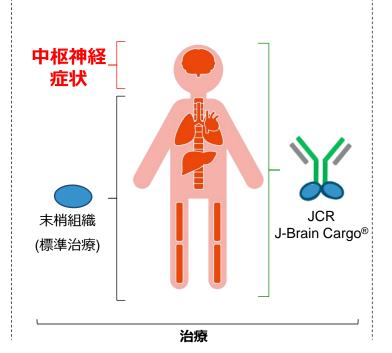
#### 生理学



## 病態生理学

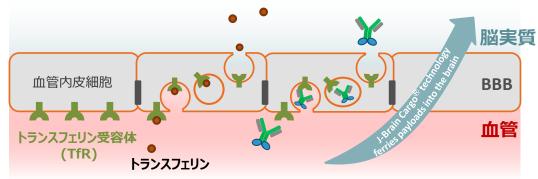


疾患負荷

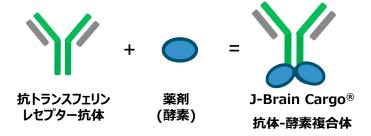




## 血液脳関門通過技術 J-Brain Cargo®







#### 臨床応用:

#### 2021

ムコ多糖症II型治療薬 イズカーゴ<sub>®</sub>点滴静注用 10mg 日本において販売開始



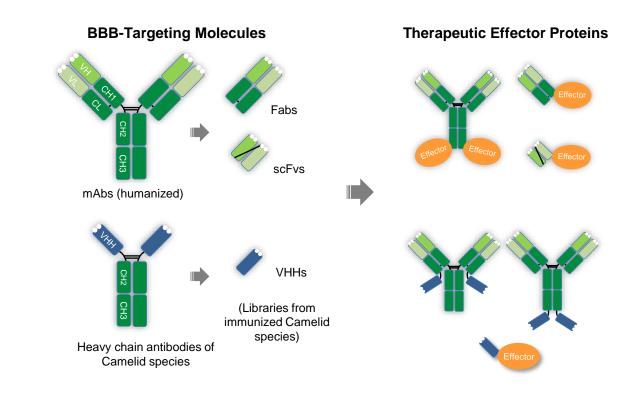


## メンCR J-Brain Cargo® 技術のバリエーション

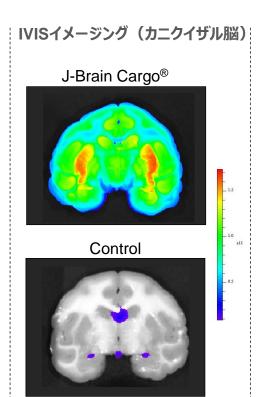
#### 治療目的に応じてカスタマイズ可能な モジュール化プラットフォーム技術

- 広範なエピトープと結合親和性をカバー (10<sup>-8</sup> ~ 10<sup>-12</sup> M)
- 遺伝子治療におけるベクター化に最適な、 ラクダ科動物から得られる抗体ライブラリー
- 神経変性疾患群に適用可能な 重特異性抗体
  - 適用薬剤と結合部位の柔軟性
- 特許数\* =出願32,特許登録15 論文数\* =原著論文9,総説1

\*2022年3月時点



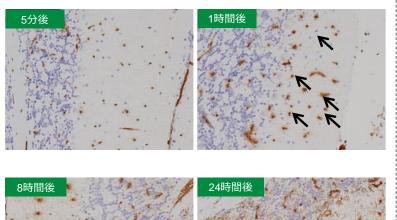
## 分子レベルでの脳血液脳関門通過性の実証

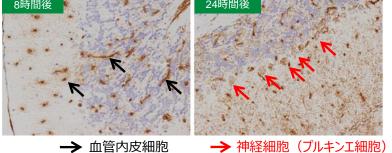


4 mg/kg, iv投与24時間後

iv:静脈内

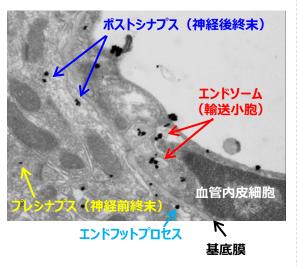
免疫染色(マウス小脳)





6 mg/kg, iv投与, Drug + J-Brain Cargo®

免疫電子顕微鏡(マウス脳)





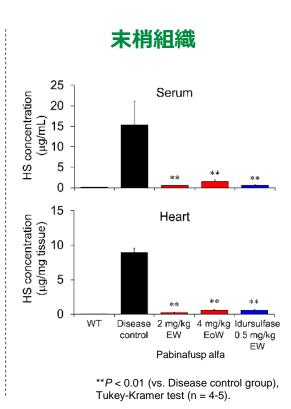
# イズカーゴ® (pabinafusp alfa)

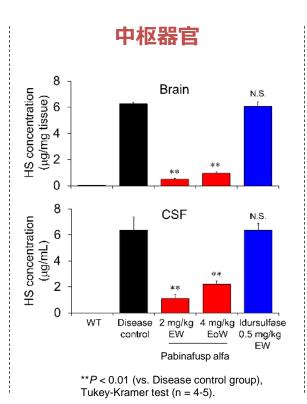
ムコ多糖症II型治療薬として日本で承認された 世界初のJ-Brain Cargo®適用医薬品

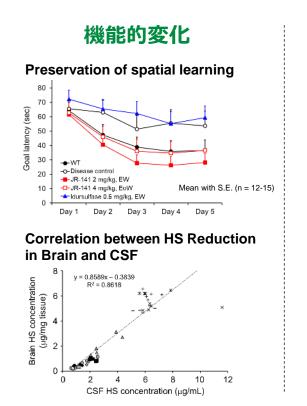


## 非臨床試験結果(pabinafusp alfa)

#### IDS KO / hTfR ノックイン マウスに対する試験結果





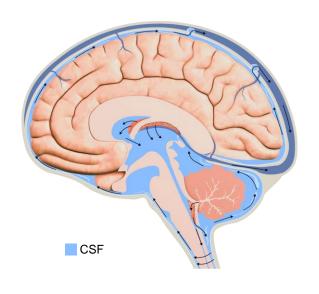


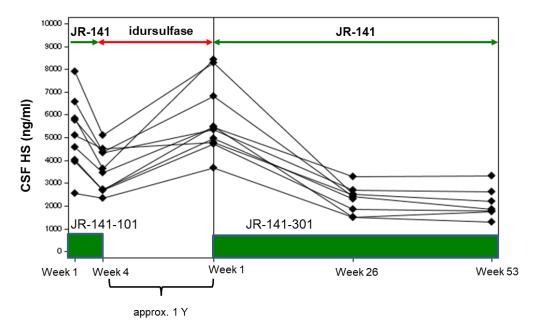
HS: ヘパラン硫酸 CSF:脳脊髄液



## 脳脊髄液中へパラン硫酸の減少は、 pabinafusp alfa投与時にのみ認められた

JR-141-101 (Ph I/II)試験からJR-141-301 (Ph III) 試験を通した 脳髄液 (CSF) 中へパラン硫酸 (HS) 濃度の経時的推移<sup>1</sup>

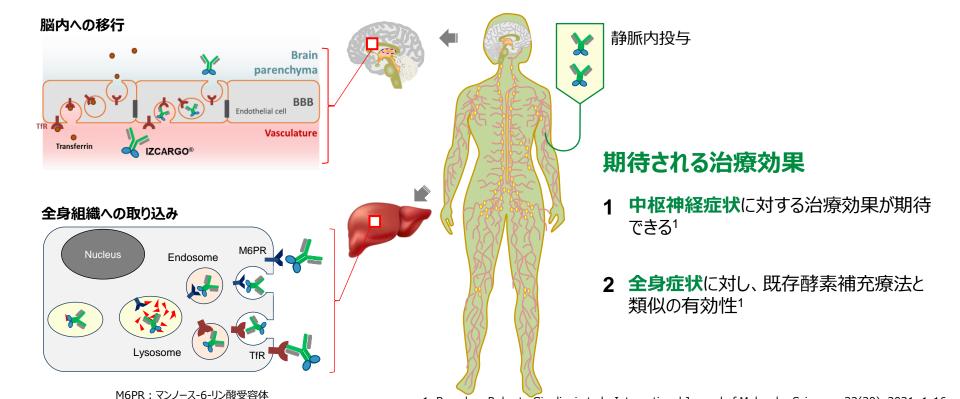




1. JCR Pharmaceuticals Evaluation document at the time of approval: Clinical Overview of JR-141: CTD 2.5.4.3



## pabinafusp alfaの中枢・全身への移行と期待される治療効果



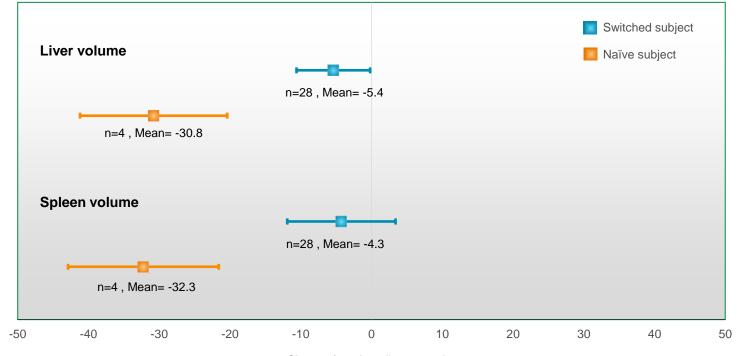
1. Based on Roberto Giugliani et al., International Journal of Molecular Sciences, 22(20), 2021, 1-16



## pabinausp alfaの全身症状に対する効果

#### 肝脾容積の相対的変化1

(Baseline vs week 52 in JR-141-301/302, JR-141-BR21/22 Studies)



%Change from baseline to week 52

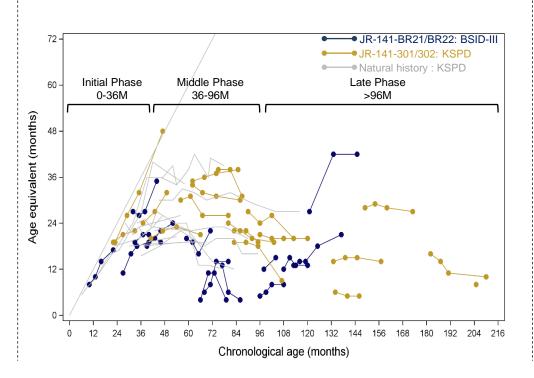
1. Based on Roberto Giugliani et al., International Journal of Molecular Sciences, 22(20), 2021, 1-16



## 神経認知機能に対する効果

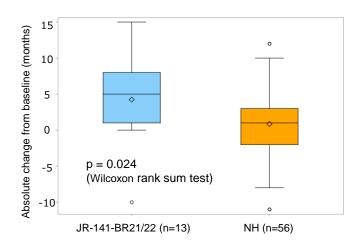
#### 重症型患者の発達年齢と自然歴との比較1

(JR-141-BR21/BR22: BSID-III, JR-141-301/302: KSPD)



#### 投与1年後における発達年齢の 自然歴との比較(BSID-III)<sup>2</sup>

(BR21/22 Studies)

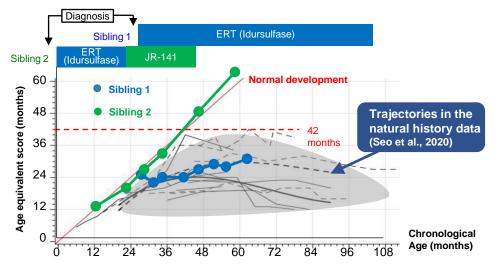


- 1. Based on Roberto Giugliani et al., International Journal of Molecular Sciences, 22(20), 2021, 1-16
- 2. JCR Internal Data



## 同一遺伝子変異を持つ兄弟例での症例報告

#### 両患者の神経認知発達の推移1



- 既存の酵素補充療法で治療を受けた 患者1の発達年齢スコア(AES)は、 自然歴と同様の経過を認めた
- 患者2のASEは、生後42か月以降 正常発達を上回っている
- 重症神経型MPS II型患者において、 通常は5歳までにAESは低下する<sup>2</sup>

AES:発達年齢スコア

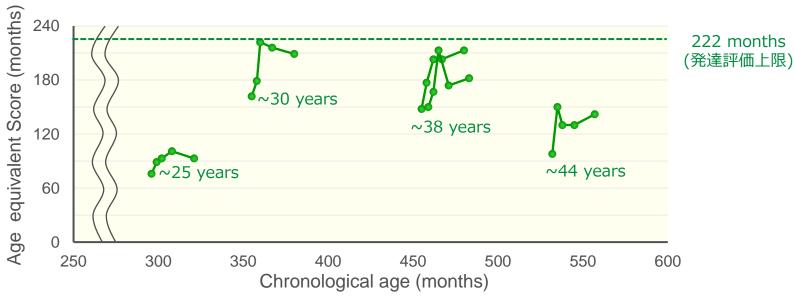
- 1. Based on Tomita K et al., JIMD Reports, 2021, 1-6
- 2. Based on Seo J.-H et al., MGM Reports, vol.24, 2020, 100630



## 軽症型MPS II型患者における中枢神経症状への効果

#### 軽症型被験者におけるKaufman (KABC II) 評価1

(JR-141-BR21/22 study)



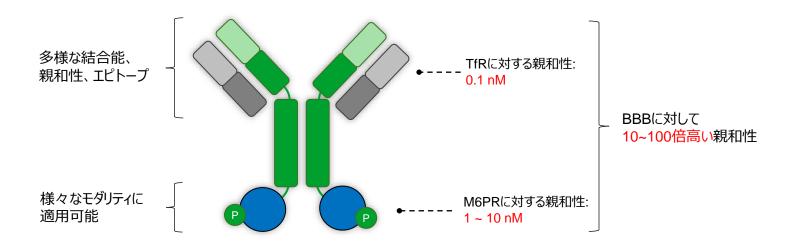
1. Based on Roberto Giugliani et al., Molecular Therapy, 29(7), 2021, 2378-2386



# J-Brain Cargo®技術の特徴



## J-Brain Cargo® 技術の分子デザインにおける特徴



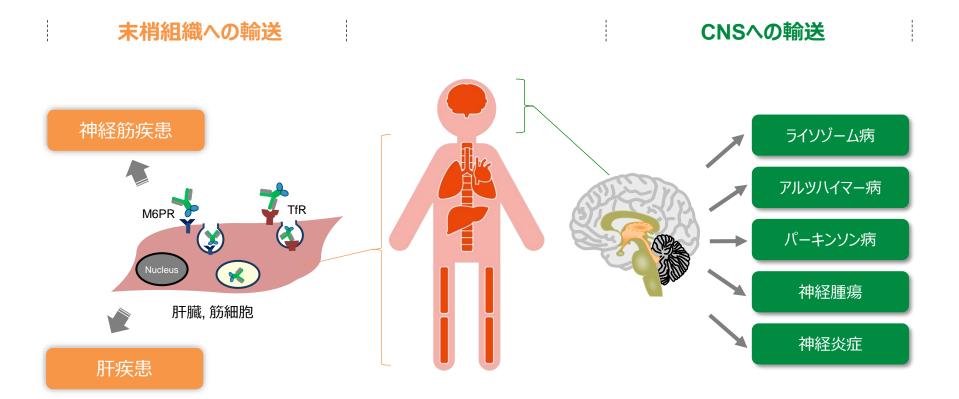
差別化ポイント	なぜ重要か?
BBBをターゲットにしやすい	• 指向性 BBB > 末梢組織
高親和性	・ 低用量であるため、点滴時間が短く、注入時反応を管理可能
多様な結合能、親和性、エピトープ、モダリティ	<ul><li>様々な疾患・モダリティに適用可能</li></ul>
安全性	• 確立された安全性プロファイル



# J-Brain Cargo®技術の応用可能性と 将来の成長戦略



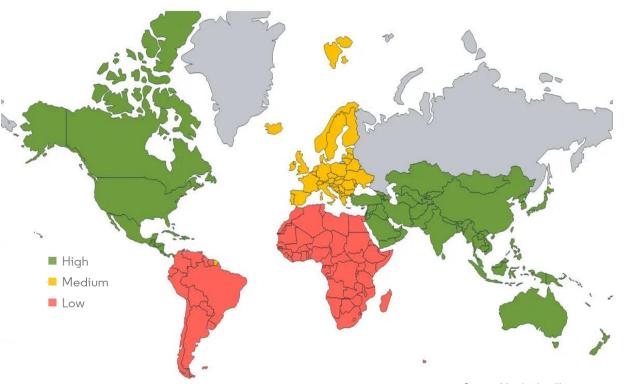
## J-Brain Cargo® 技術の臨床応用性





## メUCR ライソゾーム病市場概況

#### ライソゾーム病治療薬市場 - 各国・地域の成長性



Source: Mordor Intelligence

#### 100億ドル前後の市場性

年平均成長率約10% (2020年~2027年)

#### 発症頻度:

7.6-25 (10万出生) (先進国)

新生児マススクリーニング による診断数増加

80%以上の患者に 治療法が提供されていない

#### 酵素補充療法: 最も成功率の高い開発領域

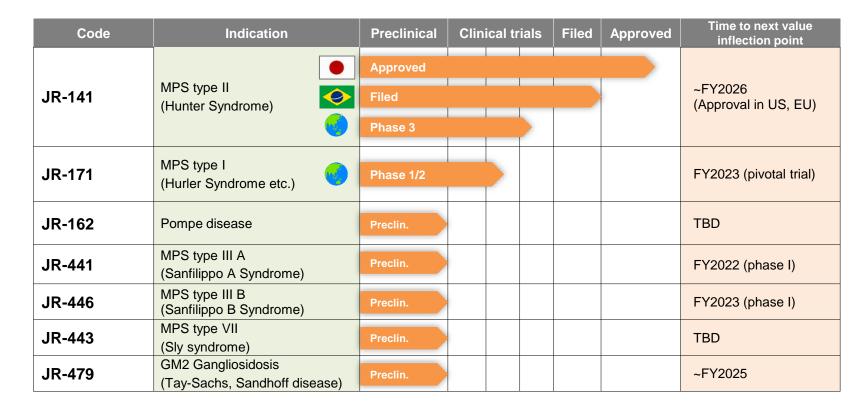
中枢神経症状での高い アンメット・ニーズ

脳への薬物送達: 時代を一新しうる革新技術



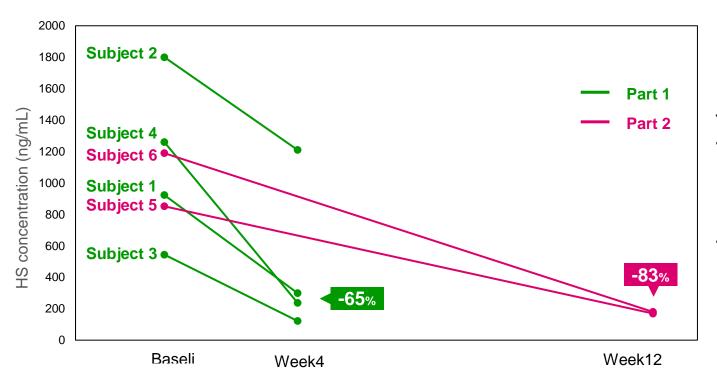
## メンCR ライソゾーム病領域の開発パイプライン

#### pabinafusp alfa本邦承認、その他品目についても臨床段階、または今後18 – 24ヶ月で臨床入りの見込み





## Phase I/II Interim Results with JR-171: 全ての患者においてバイオマーカーの減少を認めた<sup>1</sup>



#### 今後の主要なイベント:

• 2022年4月:

EMA、FDAとの後期臨床試験に関するサイエンティフィックアドバイスミーティングを実施予定

2023年:

後期臨床試験開始

EMA:欧州医薬品庁 FDA:米国食品医薬品局

1. Based on Takashi Hamazaki et al., Molecular Genetics and Metabolism, 135(2), 2021, 52-53



# ンUCR ライソゾーム病領域での当社開発パイプライン

#### 研究開発中の品目

Indication	Basic Research	In vivo PoC	Process Development	Remarks	Time to next value inflection point
Fucosidosis				Fucosidase enzyme	FY2024 (phase I)
Batten's Disease Type I (CLN1)				Palmitoyl-protein thioesterase     1 enzyme	In compassionate use
Krabbe Disease				galactocerebrosidase (GALC) enzyme	FY2024 (phase I)
GM1 Gangliosiosis				Beta-galactosidase 1 enzyme	FY2025 (phase I)
Batten's Disease Type II (CLN2)				Tripeptidyl peptidase 1 enzyme	TBD
Gaucher disease				Glucocerebrosidase enzyme	TBD
α-Mannosidosis				Alpha-mannosidase enzyme	TBD
Niemann-Pick disease				Acid sphingomyelinase enzyme	TBD
Metachromatic leukodystrophy				Arylsulfatase A enzyme	TBD
Galactosialidosis				Cathepsin A enzyme	TBD



## 人UCR 代表的なライソゾーム病の概況

#### 確立された既存治療薬の存在しない疾患

末梢組織に有効な治療薬のある疾患

Galactosialidosis

α-Mannosidosis

CLN1

MPS IIIA

MPS IIIC

Fucosidosis

Niemann-Pick type C

MPS IIIB

MPS IIID

Metachromatic leukodystrophy

GM1 gangliosidosis

GM2 gangliosidosis

Krabbe

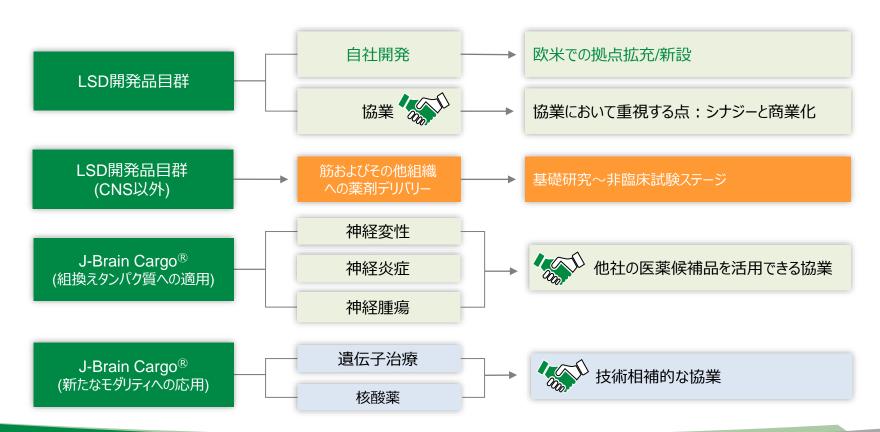
Niemann-Pick Gaucher type A, B CLN2 Pompe **Fabry** MPS II MPS I MPS IV **MPSVI** MPS VII

当社研究開発品目



## 将来の成長戦略

#### 他社との協業により、当社の成長と新たな機会が生まれる





## 武田薬品との協業におけるJCRのDNA







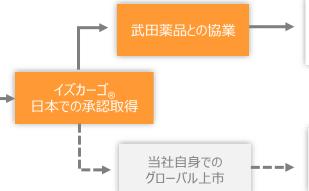


#### Pillars of strength

時代を一新しうる 希少疾病薬の研究開発

当社製品・研究開発品目の 製造技術

日本におけるビジネス基盤



#### 当社強みを維持

 時代を一新しうるJ-Brain Cargo® 開発品目の研究開発に注力

#### 当社強みを毀損

• R&D型企業からグローバルビジネスへ リソースもR&Dからグローバルビジネスへ



## 将来的な当社プレゼンスの拡大について



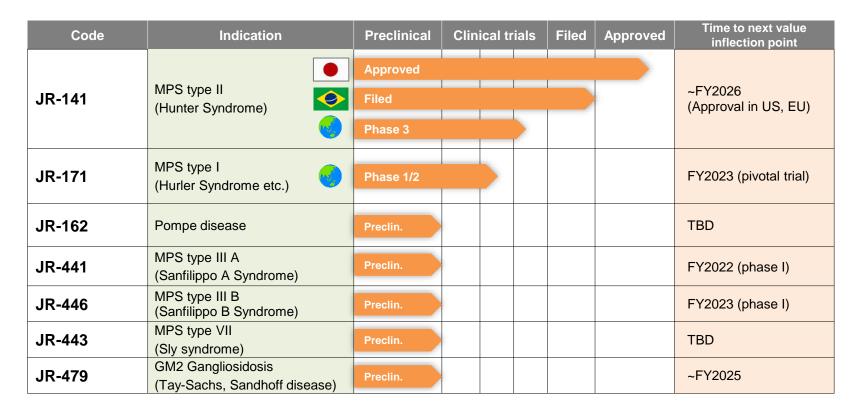


JR-441(ムコ多糖症IIIA型) JR-446(ムコ多糖症IIIB型) 非臨床データ



## メンCR ライソゾーム病領域での当社開発パイプライン

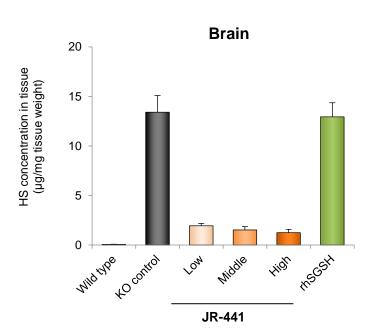
#### pabinafusp alfa本邦承認、その他品目についても臨床段階、または今後18 – 24ヶ月で臨床入りの見込み

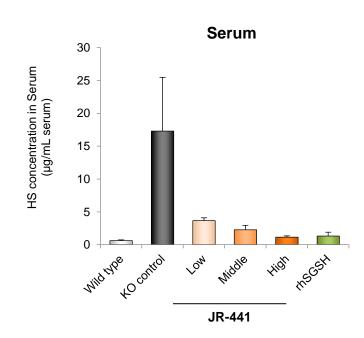




## MPS IIIAモデルマウスにおけるJR-441の有効性

#### JR-441静脈内投与後の組織中のHS濃度





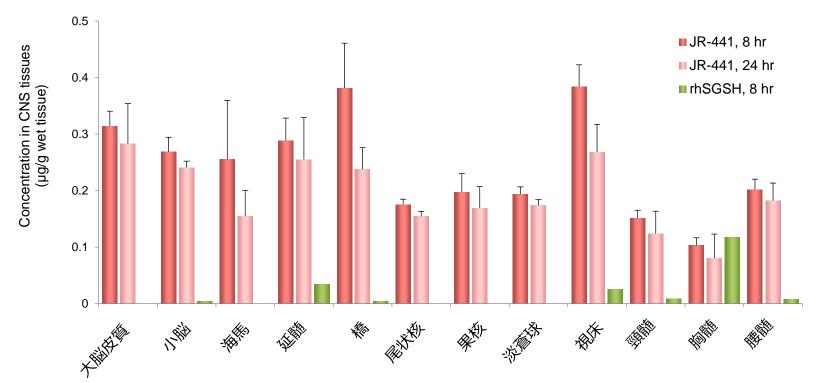
- JR-441は、抗ヒトトランスフェリン受容体抗体(J-Brain Cargo®)とhSGSHからなる融合タンパク質
- JR-441は脳内のHS濃度を用量依存的に減少させたが、rhSGSHはHS濃度への影響は認められなかった
- JR-441およびrhSGSHはともに血清中のHS濃度を低下させた



## カニクイザルにおけるJR-441の中枢神経系への生体内分布

#### JR-441とrhSGSHの静脈内投与後の中枢神経組織における生体内分布

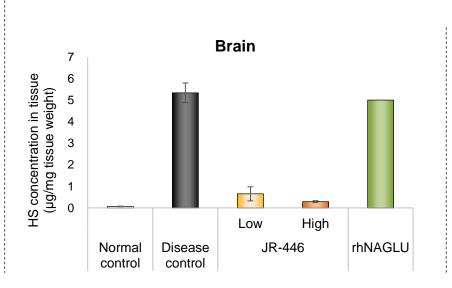
カニクイザルの中枢神経組織における薬物濃度

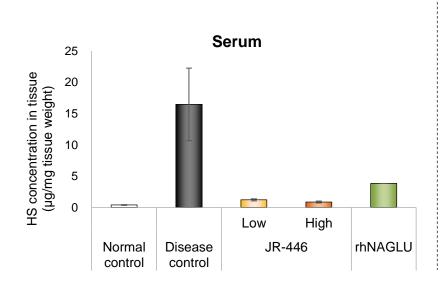




## MPS IIIBモデルマウスにおけるJR-446の有効性





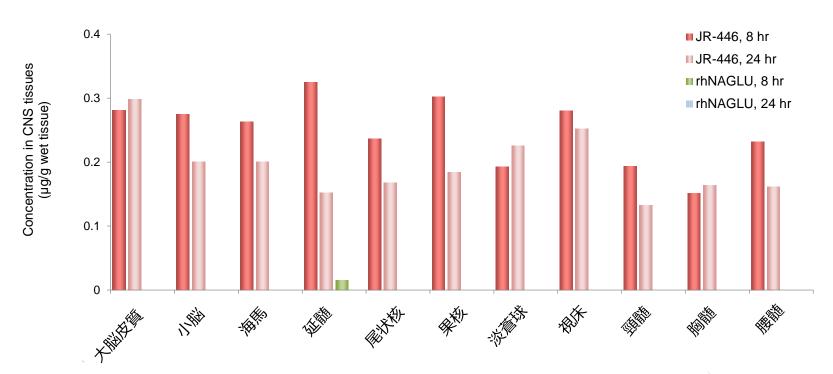


- JR-446は、抗ヒトトランスフェリン受容体抗体(J-Brain Cargo®)とhNAGLUからなる融合タンパク質
- JR-446は脳内HS濃度を低下させたが、rhNAGLUは影響を及ぼさなかった
- 血清中では、JR-446はrhNAGLUよりも効率的にHS濃度を低下させた



## カニクイザルにおけるJR-446の中枢神経への生体内分布

# JR-446およびrhNAGLUの静脈内投与後の中枢神経組織における生体内分布についてカニクイザルの中枢神経組織における薬物濃度



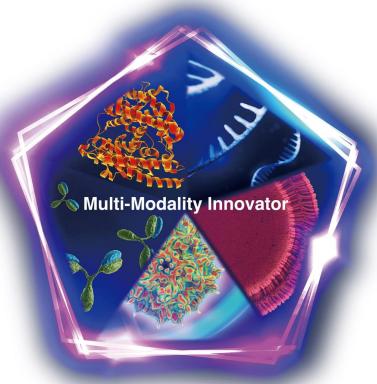


# J-Brain Cargo® プラットフォームテクノロジーの 多様なモダリティへの適用



## 多様なモダリティへのJ-Brain Cargo®の応用可能性

Protein Engineering (タンパク質工学)



Applicability to various modalities (多様なモダリティへの応用)

Antibody Engineering (抗体工学)

Combination with Cutting Edge Technologies (最先端技術との組合せ)



## 多様なモダリティへのJ-Brain Cargo®の応用可能性

Enzymes and Proteins Delivery to the brain and muscle to replace deficient or missing enzymes and proteins

Antibody Delivery to the brain in various formats (bi-specific, tri-specific)

Oligonucleotide
(ASO, siRNA) Delivery
to the brain and muscle
to modify gene expression

LNP (mRNA, low-molecular compound) Delivery to the brain and muscle to replace deficient or missing proteins

JBC: J-Brain Cargo®

#### Gene/Cell therapy

combined with J-Brain Cargo® technology pave the way to treat CNS pathologies



#### 研究開発におけるJCRの強み

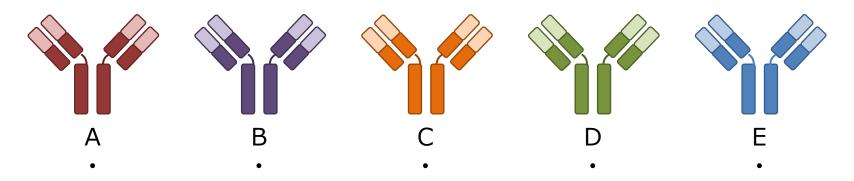
#### 研究プロセス

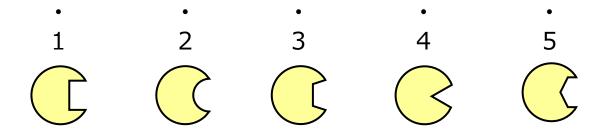
- 1.分子設計
- 2.組換えタンパク製造 (培養・精製)
- 3.疾患モデル動物での評価
- 4.分析•解析
- 5. トライアル&エラー

- 自由な設計を可能にする次世代J-Brain Cargo®プラットフォームと これまでに蓄積した技術・経験・ノウハウ
- 創業以来の得意分野 融合タンパク製造における技術・経験・ノウハウ
- ⇒ ライソゾーム病における専門性 既に10種以上のモデルマウスを樹立済
- 疾患毎のバイオマーカー探索、測定手法確立
- トライアル&エラーの繰り返し このサイクルを早く回す組織体制



## 候補品の最適化プロセス

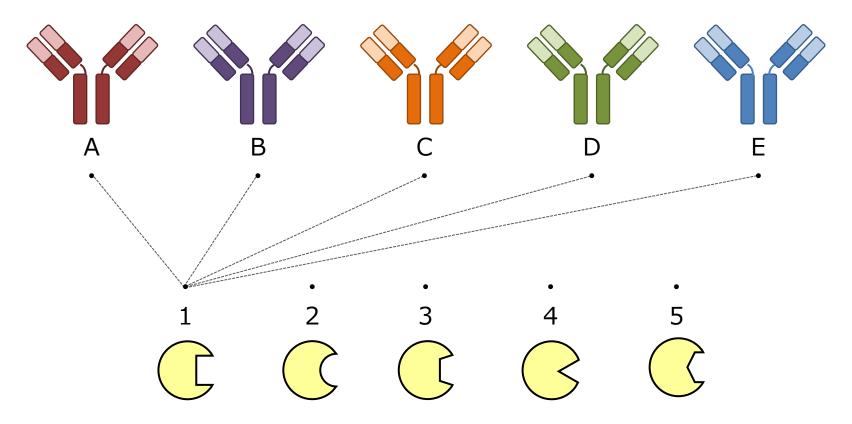




酵素と抗体の最適な組み合わせの検討

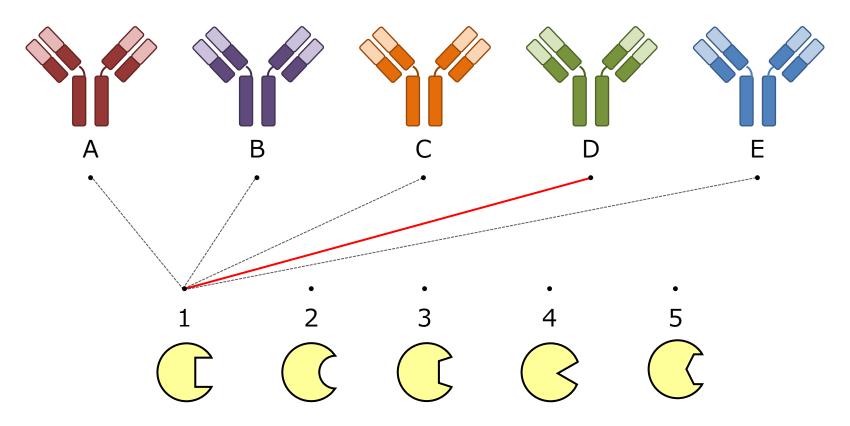


## 候補品の最適化プロセス



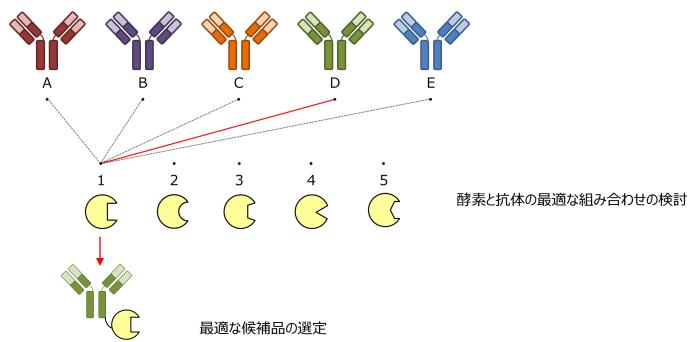
酵素と抗体の最適な組み合わせの検討

## 人」CR 候補品の最適化プロセス

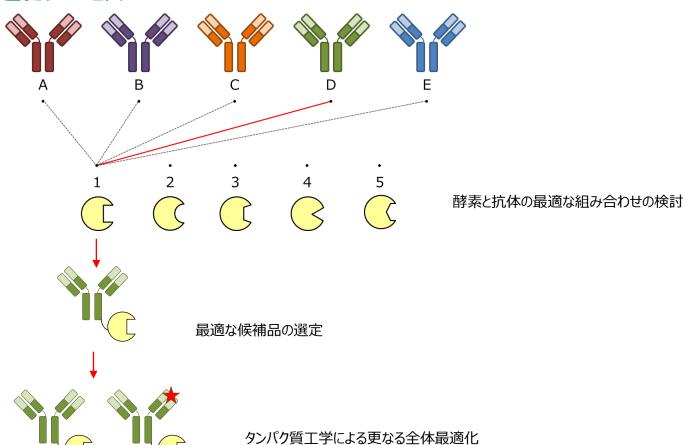


酵素と抗体の最適な組み合わせの検討

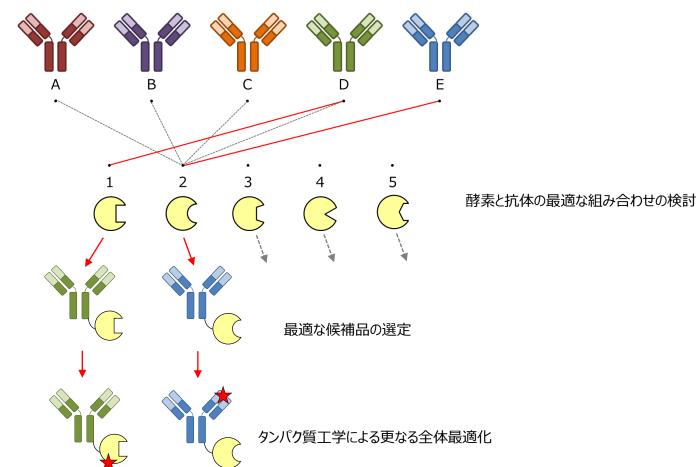
#### 人」CR 候補品の最適化プロセス



## 人 GCR 候補品の最適化プロセス

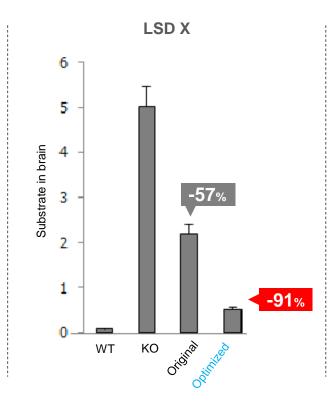


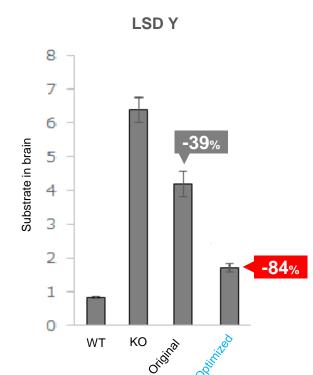
#### 人」CR 候補品の最適化プロセス





#### J-Brain Cargo® 技術の改良・最適化





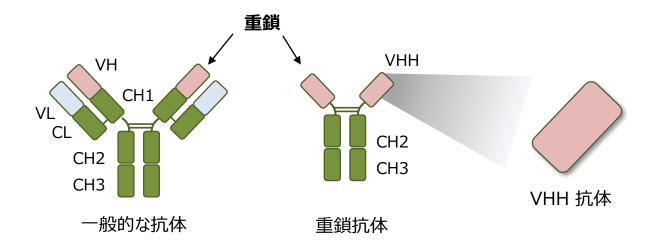
#### 主要な結果

- ✓ J-Brain Cargo<sup>®</sup>技術の最適化により薬効が向上
- ✓ 親和性、価数、融合分子デザイン等の調整が可能
- ✓ 分子ごとにBBB通過性を最適化

JCR Internal Data



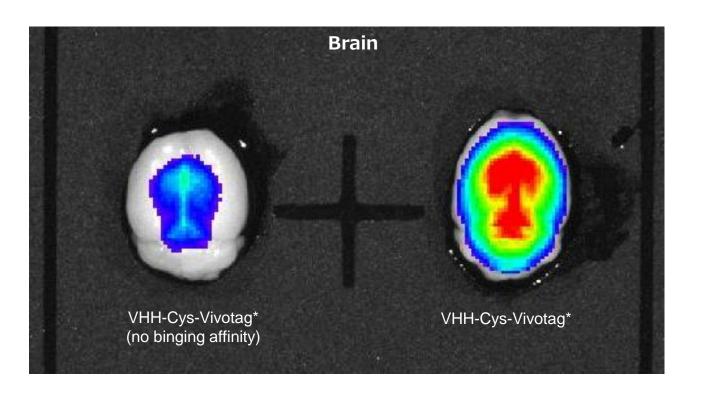
#### 抗トランスフェリン受容体 VHH抗体

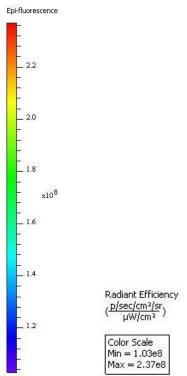


- ・親和性は通常の抗体と同程度
- ・隠れたエピトープも認識可
- ·安定性が高い(熱、有機溶媒、pH)
- ・大腸菌・酵母等で安価に大量生産が可能
- ・加工が容易(二量体化、二重特異性など)



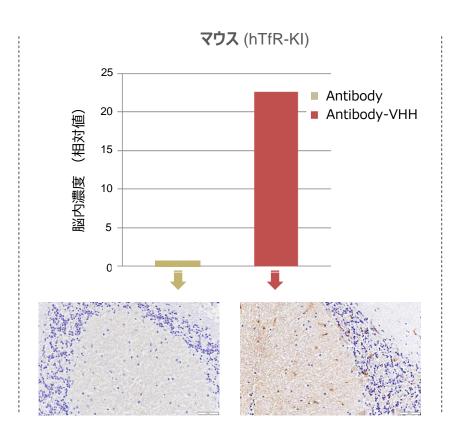
# 脳移行性の確認(マウス試験)

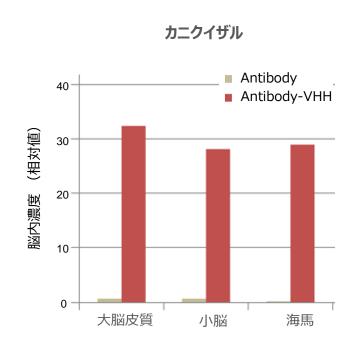






### 抗体医薬の脳へのデリバリー





JCR Internal Data



### 多様なモダリティへのJ-Brain Cargo®の応用可能性

Protein Engineering (タンパク質工学)



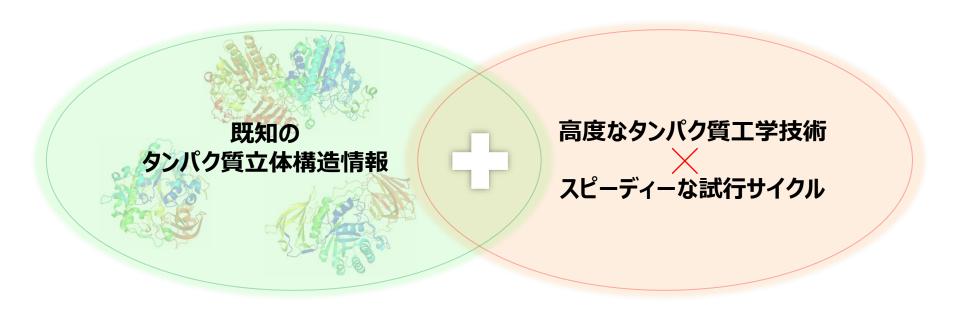
Applicability to various modalities (多様なモダリティへの応用)

Antibody Engineering (抗体工学)

Combination with Cutting Edge Technologies (最先端技術との組合せ)



#### 分子構造が複雑な候補品でも タンパク質工学を駆使して、開発の障壁となる課題克服をめざす



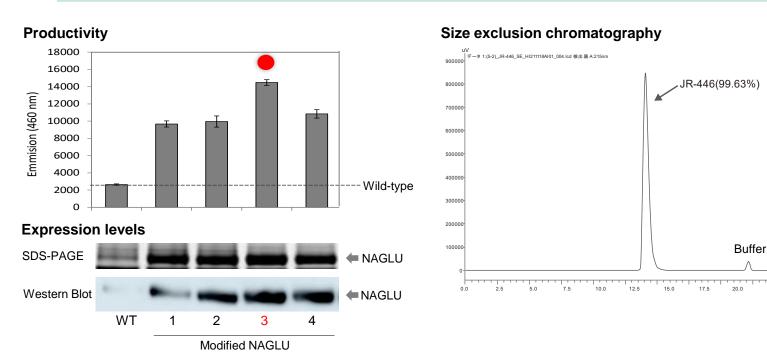
タンパク質を種々の手法で改変することにより 発現量や安定性といった課題を克服



#### 例 1: JR-446における発現量の向上

#### 背景:

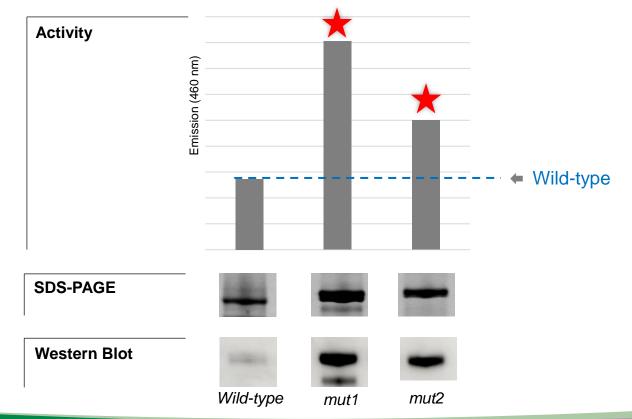
• NAGLU酵素の発現レベルは極めて低く、MPS IIIB型のERT製剤開発の大きな課題



改変型NAGLU#3では商業利用可能な高い発現レベルを達成



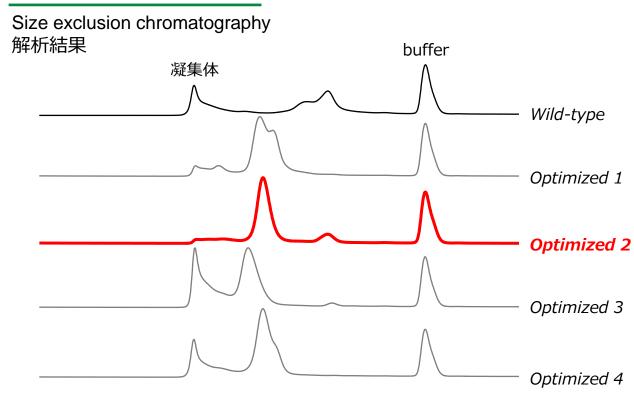
#### 例2:酵素Yの発現量および安定性向上





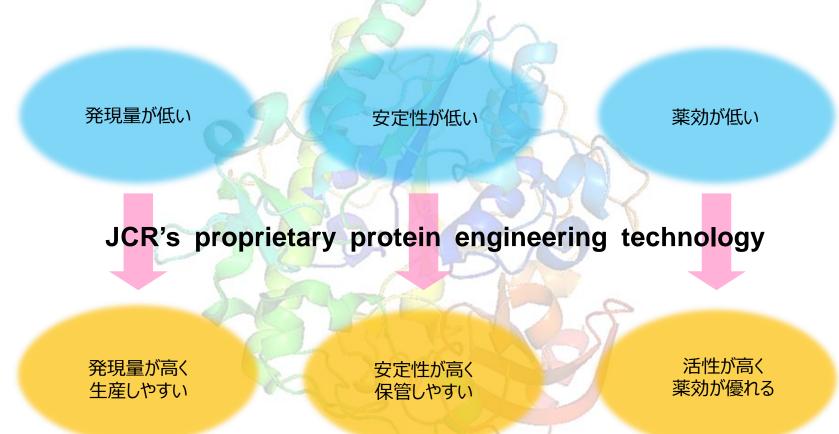
### 例2:酵素Yの発現量および安定性向上

#### 不安定な分子形態を安定化





#### 独自のタンパク質工学技術による課題の克服





#### 多様なモダリティへのJ-Brain Cargo®の応用可能性

Protein Engineering (タンパク質工学)



Applicability to various modalities (多様なモダリティへの応用)

Antibody Engineering (抗体工学)

Combination with Cutting Edge Technologies (最先端技術との組合せ)







幅広いモダリティへの応用





幅広いモダリティへの応用



バイオ医薬品の 研究開発における 豊富な知見



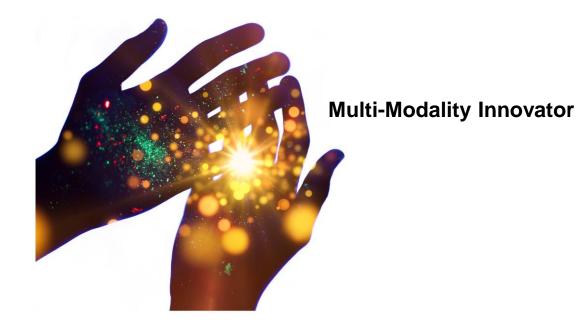


柔軟かつ迅速な意思決定

幅広いモダリティへの応用

バイオ医薬品の 研究開発における 豊富な知見









# 注意事項

本資料中の開発見通し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知ください。そのような要因の例としては、経済情勢の悪化、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。

本資料は医薬品(開発中の物を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではなく、また、今後の結果を保証するもの、開発中の製品の効能・効果を保証するものではありません。また、当社の会社説明・事業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に掲載した臨床開発のデータは、現時点で学会発表ならびに査読のある学術誌に公表されていないものが含まれております。今後、公表するように努めます。

フェア・ディスクロージャー・ルールにのっとり、本資料に掲載した以外のデータは、質疑応答においても公表いたしません。 ご理解いただきますようお願いいたします。